静岡 ユースサッカー
THE YOUTH SOCCER

11月27日月曜日
昭和47年（1972年）

発行所
静岡県清水市サッカー協会
発行人　協会理事長堀田哲爾
編集人　サッカーニュース社
二本木一夫
清水市住吉町9－6
電話（0543）67－1970(代)
編集専用電話66－5282(代)

PEPSI

中協会だより

少年指導者を表彰

少年リーグも終了したが、来年より少年指導者を表彰する規定作成をいそいでいる。何はともあれ十年以上の人は無条件で第一回の表彰を受けるとのこと。

サッカー金言集③

試合で勝った者には友人が多く集まり、新しい友人もできる。しかし本当に友人が必要なのは敗れたほうなのだ。私は敗れた者を訪れよう。

—D・クラマ—

スポーツのためにスポーツを行なえ。強いということは、善いということだ。

—作者不明—

競技者は彼の思考力と集中力以上の者ではない。—ケイロード—

清水市民大会大熱戦！

やったぞ江尻 10年ぶり

第四十回市民体育大会は去る十一月三日文化の日、開会式に引き続いて清水東高で雨天の中、七部門の決勝戦が行なわれた。

開会式にあたっては市理事長の堀田哲爾氏が功労賞で市長より表彰を受けた。

雨天の中の試合は特にジュニアー、女子にとってはきびしいものとなったが、基礎の定着している本市少年サッカーでは、悪コンディションが気にならない好試合が多かった。

少年ジュニアは辻が完勝！

ジュニアは辻対和田島、前半和田島は斉藤山村、青木のはやいうごきで五分の試合をすすめたが、後半になり辻CF高山のうごきについていけず3点をうばわれた。特に辻の山中、熊沢のうごきはたてに強いものを持っていた。

五年 辻対飯田FA 賞讃！最高の試合

七試合の内で最も内容があったのが五年生の飯田ファイターズと辻の試合だった。前半飯田遠藤の個人技で何回か辻ゴールをおそったが辻GK深沢の好守で無得点。後半に入り辻岩石の好パスを影山がセンターリング、そのボールがそのままゴールするラッキーな点だった。

得点された飯田は大多和、杉山のハーフが思いきりあがり、遠藤を走らせたが点にならず、飯田遠藤をマークしていた辻の遠藤が大きくクリアーしたボールがこれまたゴールにとびこみ2対0とした。ラッキーな点とはいえ雨の中でのこのキック力が試合を左右したといえる。

本当にこの試合はいいグランドでやれば日本リーグよりおもしろい試合となろう。辻の杉山、大勝のファイトあるプレーが目についた。

泥にまみれて王座は消えた　残念　飯田ファイターズ

六年の王座！江尻のキック力に入江ダウン

個人技の入江、力の江尻、試合前に本部では雨なら江尻2対0の声がその予想通りな結果となった。入江は浜口、志田、栗田を攻撃の軸に、中盤もボールをまわすことに労力を使いすぎゴール前でもたつき、江尻のGK押見のあみに完全にかかった感じ。

一方江尻は中盤なしのたて一本やり、坪井からの長いたてパスを佐野に走らす事に全力結果的にはそれが成功2対0と圧勝の形となった。

八中三連勝！光る志田 杉本の個人技

四中イレブンが全力で八中の個人技を苦しめた試合だった。雨が四中に幸して、ボールの持てない八中に対し四中は大きくキックして応戦前半は互角でわたりあった。しかし八中志田のゴール前のはやいうごきにバックがついていけず2点をうばわれた。八中は山村大井のバックと栗田、太田のミッドフィルプレーがよく動いていた。片山、志田、杉本のコンビはよくとれていたがチームとしての戦術が不足していた。

全国大会をねらう場合グループ戦術、チーム戦術の面での練習が必要であろう。

女子興津ファイトで中河内を圧倒！

リーグで二敗している興津は苦しみながらの王座決定戦出場であった。一方中河内は早ばやと優勝を決め、一挙に王座もと加藤監督の自信を持っていた。しかし試合はやってみないと解らないもので思わぬGKのミスで失点、大きな敗戦となった。

しかし小さな山の中で女子チームがこんなにまで育った事に対して指導者の努力をたたえたいと思う。

高校部門は清商が大あばれ

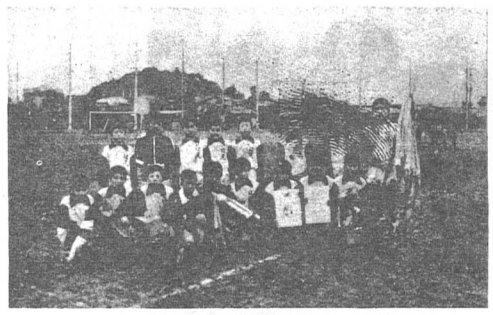
試合内容は一方的であった。南高のGKの好守によって2点でとどまったが、清商の動きはするどく、特に伏見、山田の一年生が思いきりよく動いていた。

攻守の切りかえの早さと、シュート力をこれからの課題にすれば来年の楽しみなチームとなろう。この種別では東海工高が非常な力をつけ準決で清商を苦しめたのが印象に残る試合であった。

岡地区初優勝！有度を一方的に敗る

この試合まで好調の有度が優勝だろうと戦前の声は高かったが、チーム力がや、おとる岡地区は、全員がよく守り有度の鋭いうごきを0におさえ、攻めでは松下、沢村のオーバーラップよく、3点とうばい完勝した。

個人技のしっかりしている有度は雨のグランドを考えないでボールをいたずらに持ち続けたバックのミスが目だち、敗戦のうきめとみた一戦であった。


6年の王座獲得　江尻イレブン

女子優勝の興津チーム

5年とジュニアが二つの王座　辻イレブン

《決勝戦結果》

J	辻	3－0	和田島
5年	辻	2－0	飯田FA
6年	江尻	2－0	入江
女子	興津	1－0	中河内
中学	八中	2－0	四中
高校	清商	2－0	南高
地区	岡地区	3－0	有度

東部地域に朗報！第一回少年大会を

富士宮連盟が開催！

市政施行三十周年を記念して富士宮サッカー連盟の結成と、第一回少年サッカー大会が計画された。連盟会長の遠藤二三夫氏、副会長の鈴木洪司氏、同植松直氏等のはたらきかけで、教育委員会も後援して行なわれることになった。

同大会の世話役をやっている黒田小の石川明弘先生も「清水にはかなわないけれど、少しづつでも近づけたい」とのこと。昨年大宮小で実技少年指導講習会を催した時もなかなかのテクニシャンや、身体の大きなキック力のある子が多くいただけに、東部のサッカーが低地域だけに「すぐ「学校前に下宿しているので子供をみてやる時間はあるけど、お天とうさまがなくなってしまってはね」という加藤先生はまだ独身。

このところ山間部の子供の体位はあがってきているがそれでも小さな選手が多い。丹沢あつ子（五年生）は百三十センチだがレギュラーで身体をうごきでカバーしている。ファイトマン。

ここには青木校長をはじめ巽、森下両先生が体育に特に理解があり子供も生き生きと育っている。建築中の校舎の片すみで今日もJC大会優勝めざして、短かい冬の日ざしをあびながら……。

＊少年チーム紹介＊

中河内サッカー少年団

興津川の上流二十キロの山あいにある全校百五十三名の学校に、本年度女子サッカーリーグの台風の目だった中河内少年団女子部がある。

リーグ初優勝をもたらした紺のユニホームには、全校の心がかよっている。というのは春このユニホームをつくるために、全校でワラビとりをやりその資金で作ったのである。

現在、部員は男女合わせて三十四名。男子の活躍は本年はあまりかんばしくないが、女子の試合には全員で応援にかけつける。指導コーチは加藤修明先生試合場にはいつも斉藤先生が三十四名をひとりでつれて歩く姿がみられる。「グランドは特にせまく山の中で日照時間も短かく練習時間がなくって……」というけど、どうしてどうして非常にうまい。五月のボールリフティング大会でも一位に大石久代、二位森田秋子と上位を独占、リームでもこの二人が大活躍した。遠い道のりでしかも山合い、練習が終われば加藤先生もタクシーの運転手に早がわり車に子供をいっぱいつめこんで送りとどける

《富士宮市少年サッカー大会組合わせ》

富士根北小
芝富小
東小
上井出小
黒田小
貴船小
沼久保小
富士根南小
粟倉分
山宮小
大富士小
人穴小
富丘小
大宮小

第三回東海大会

清水・藤枝が今年も出場！

十一月十二日清水市営グランドで行なわれた第三回東海四県少年サッカー大会静岡県予選は県下八地区より選出された最強チームでの出場権をかけての試合であり、第一第二回同様清水、藤枝の二チームが出場した。

特に藤枝は強く中央を中心にした最強チームであったが、沼津、庵原、清水を敗っての出場とあって今年こそは東海大会をとねらっている。

戦績は次の通り。

一回戦
清水2－0榛南
浜松1－0志田
庵原1－0静岡
藤枝9－0沼津

準決勝
清水3－0浜松
藤枝7－0庵原

決勝
藤枝5－0清水

編集ノート

◆第三号の最終校正は師走選挙本番突入の夜であった。候補者不在の選挙カーが大往左往ボリュームを上げたスピーカーから飛び出してくる声は「ご挨拶に参りましだ、お願い致します」の二言につきている。これから二十日間この声に悩まされるのかと思うのの筆者だけだろうか。列島改造を物価安定も公害対策もと盛り沢山な諸先生方に提言したい、無心に眠る赤ん坊の目を覚させる選挙カーより各党自慢のアイドルマークの縫ぐるみでもアルバイトに着せお供に連れて盛り場を歩いてみたらいかが◆第四号の整理、割付、校正もこの期間の中に入るのである。紋次郎とは逆にかかわりある二十日間となった（二本木）

ワンポイント・サッカー③

JFAコーチ　堀田哲爾

インフロント・キック

ウイングが大きくセールを蹴ろうとする方ンターリングする場合、向に向けてふみこみ、ほとんどのキックはイ右足先をのばして足のンフロントキックである。甲の内側のおや指を中心にした部分をボールに斜めにあてます。そのまま右足を前に振り出せばいいのです。

このようなキックはテップと同様、ボールを蹴ろうと思う方向に向かって斜めうしろに何回もくりかえし練習し、しかも目標をきめ立ち、左足をボールから30センチほどはなしてつま先をこれからボ（次はインサイドキックです）

県少年大会清水予選 16チーム第二次予選へ！

第五回県少年サッカー大会清水予選会は十六チームの参加で行なわれる。

十年ぶりの王座チー東部を代表する市になることも夢ではないと思う」との事。

早く県下の少年チームにも仲間入りしてもらいたいものです。

富士根北小
白糸小
芝富小
東小
上井出小
黒田小
貴船小
沼久保小
富士根南小
粟倉分
山宮小
大富士小
人穴小
富丘小
大宮小

予選は4ブロック制をとりAブロックには江尻、庵原、袖師、高部。Bブロックには入江、西河内、飯田ファイターズ、小島。Cブロックには辻、有二、飯田、二保一。Dブロックには和田島、不二見、興津、有一。

Aブロックでは江尻対庵原戦、Bでは入江対西河内戦、Cでは辻対有二戦、Dでは和田島対不二見戦がおもしろい。

五年生チームで参加している有一、興津、飯田FAがどの位相手チームを苦しめるかも興味がある。どちらにしても各ブロックの勝者が十二月十七日(日)の最終選考試合で三チームが出場権を得ることになる。

国体は埼玉に惜敗！ 静岡高校選抜チーム 三連覇を逸す！

第二十七回国民体育大会秋季大会は、明るい南の国鹿児島市を中心に太陽国体と銘打って華々しく開催された。三連勝を目指す本県高校選抜チームは一回戦5－0福岡県、二回戦3－0愛媛県、三回戦3－1山梨県、準決勝3－0鹿児島県と破竹の快進撃を続け決勝で予定通り埼玉県と相対した。

個人技、パスワークとともに高校としては抜群の両チームであったが、雨上がりのグランドには各所に水たまりが見られ、選手は走り出す一歩が滑って実にやりにくそうであった。

更に早朝九時からの試合で両チーム共何か一つ調子が出し切れない感じであったが、前後半共一進一退を続けわずかに埼玉が体力と闘志に勝りチャンスが多かった。

◀記念撮影の背景には桜島の噴煙が……

しかし静岡のバック陣は実によく健闘し着実なマークで埼玉のチャンスをつぶし得点を許さなかった。延長開始直後、埼玉キックオフのボールが左に大きくふられ、むかえ撃ちに行った静岡RB岩田が不運にも水たまりで滑って尻もちをつく間に埼玉OL坂本が深く持込んでセンタリング逆からとび込んできた埼玉の清水がタイミングよく頭で合わせて静岡は決勝の一点を失った。

延長後半には逆に静岡中村がバックをすりぬけてGKと一対一となり、決定的なチャンスをつかんだが、GKの好守にはばまれ、遂に三連勝の夢は消えさった。

敗れはしたが選手達は全力を出しつくした者のみが知る満足感から、打ちしおれたりすることなく、終了式閉会式でも堂々と胸を張って最後まで悪びれず、二年生の内藤、中村、大石の三選手に、「来年は必ず優勝して仇をとってくれよ」と激励していた。

本年の静岡高校選抜チームの活躍の跡をふり返ってみて言い得ることは、GK向島をはじめ、ストッパー伊藤スウィーパー西ヶ谷の縦の軸と両サイドバック岩田、内藤らとの横の守りは本大会に入って一戦一戦力をつけ、一点はPK）に押さえた。まさに本大会の最高のBK陣であったと言っても過言ではない。

一方、攻撃陣は大会前までは「点のとれない一点はPK）に押さえた。まさに本大会の最高のBK陣であったと言っても過言ではない。

一方、攻撃陣は大会前までは「点のとれないチーム」と言われていたが、休日ごとのすぐれたコーチによる練習、断えざる個人の自主トレが実を結んだのだろう。本大会に入って岡本、志田の両エースが、次々と得点し「点のとれないチーム」の汚名を返上した。

また、中盤にあって他県チームには見られない高度な組立てを行ないチャンスにはゴールに躍り込んで自ら得点した太田、滝、天野らのハーフ陣の活躍も光っていた。鈴木久が大会前の練習試合に足首に負傷し大会期間中ずっと苦しんで本来の力が出せなかったこと、中村が俊足を狙われて、ボールでなく足へ集中攻撃をうけて負傷し、やはり実力を出し切れなかったことが誤算ではあったが、チーム発足以来三ヶ月福本監督から厳しく叱咤されて努力して来た成果が花開いたという感じでまずまずオフェンス陣にも合格点があげられる成績であった。

では三連勝するために何が欠けていたのか？長池総監督は「今後の静岡高校選抜の課題は体力、パワー精神力、プレーの巾の全てに個性のある選手を作ることだ、個人個人を強くすぐれた選手に磨きあげることだ。」と言っていた。

技術で勝ってもパワーで敗けた 今後の課題をどうするか！

チームとして華麗なテクニックを駆使して見た目に美しいサッカーをやること、あるいは体力とパワーと根性と闘志で猛烈サッカーをやることも必要かもしれないが、それらのチームから特定の個人をピックアップしてチームを編成してみたらいい南の国鹿児島市を中心に太陽国体と銘打って華々しく開催された。三連勝を目指す本県高校選抜チームは一回戦5－0福岡県、二回戦3－0愛媛県、三回戦3－1山梨県、準決勝3－0鹿児島県と破竹の快進撃を続け決勝で予定通り埼玉県と相対した。

個人技、パスワークとともに高校としては抜群の両チームであったが、雨上がりのグランドには各所に水たまりが見られ、選手は走り出す一歩が滑って実にやりにくそうであった。

更に早朝九時からの試合で両チーム共何か一つ調子が出し切れない感じであったが、前後半共一進一退を続けわずかに埼玉が体力と闘志に勝りチャンスが多かった。

しかし静岡のバック陣は実によく健闘し着実なマークで埼玉のチャンスをつぶし得点を許さなかった。延長開始直後、埼玉キックオフのボールが左に大きくふられ、むかえ撃ちに行った静岡RB岩田が不運にも水たまりで滑って尻もちをつく間に埼玉OL坂本が深く持込んでセンタリング逆からとび込んできた埼玉の清水がタイミングよく頭で合わせて静岡は決勝の一点を失った。

延長後半には逆に静岡中村がバックをすりぬけてGKと一対一となり、決定的なチャンスをつかんだが、GKの好守にはばまれ、遂に三連勝の夢は消えさった。

敗れはしたが選手達は全力を出しつくした者のみが知る満足感から、打ちしおれたりすることなく、終了式閉会式でも堂々と胸を張って最後まで悪びれず、二年生の内藤、中村、大石の三選手に、「来年は必ず優勝して仇をとってくれよ」と激励していた。

本年の静岡高校選抜チームの活躍の跡をふり返ってみて言い得ることは、GK向島をはじめ、ストッパー伊藤スウィーパー西ヶ谷の縦の軸と両サイドバック岩田、内藤らとの横の守りは本大会に入って一戦一戦力をつけ、一点はPK）に押さえた。まさに本大会の最高のBK陣であったと言っても過言ではない。

一方、攻撃陣は大会前までは「点のとれないチーム」と言われていたが、休日ごとのすぐれたコーチによる練習、断えざる個人の自主トレが実を結んだのだろう。本大会に入って岡本、志田の両エースが、次々と得点し「点のとれないチーム」の汚名を返上した。

また、中盤にあって他県チームには見られない高度な組立てを行ないチャンスにはゴールに躍り込んで自ら得点した太田、滝、天野らのハーフ陣の活躍も光っていた。鈴木久が大会前の練習試合に足首に負傷し大会期間中ずっと苦しんで本来の力が出せなかったこと、中村が俊足を狙われて、ボールでなく足へ集中攻撃をうけて負傷し、やはり実力を出し切れなかったことが誤算ではあったが、チーム発足以来三ヶ月福本監督から厳しく叱咤されて努力して来た成果が花開いたという感じでまずまずオフェンス陣にも合格点があげられる成績であった。

では三連勝するために何が欠けていたのか？長池総監督は「今後の静岡高校選抜の課題は体力、パワー精神力、プレーの巾の全てに個性のある選手を作ることだ、個人個人を強くすぐれた選手に磨きあげることだ。」と言っていた。

チームから特定の個人をピックアップしてチームを編成してみたらいい南の国鹿児島市を中心に太陽国体と銘打って華々しく開催された。三連勝を目指す本県高校選抜チームは一回戦5－0福岡県、二回戦3－0愛媛県、三回戦3－1山梨県、準決勝3－0鹿児島県と破竹の快進撃を続け決勝で予定通り埼玉県と相対した。

個人技、パスワークとともに高校としては抜群の両チームであったが、雨上がりのグランドには各所に水たまりが見られ、選手は走り出す一歩が滑って実にやりにくそうであった。

更に早朝九時からの試合で両チーム共何か一つ調子が出し切れない感じであったが、前後半共一進一退を続けわずかに埼玉が体力と闘志に勝りチャンスが多かった。

しかし静岡のバック陣は実によく健闘し着実なマークで埼玉のチャンスをつぶし得点を許さなかった。延長開始直後、埼玉キックオフのボールが左に大きくふられ、むかえ撃ちに行った静岡RB岩田が不運にも水たまりで滑って尻もちをつく間に埼玉OL坂本が深く持込んでセンタリング逆からとび込んできた埼玉の清水がタイミングよく頭で合わせて静岡は決勝の一点を失った。

延長後半には逆に静岡中村がバックをすりぬけてGKと一対一となり、決定的なチャンスをつかんだが、GKの好守にはばまれ、遂に三連勝の夢は消えさった。

敗れはしたが選手達は全力を出しつくした者のみが知る満足感から、打ちしおれたりすることなく、終了式閉会式でも堂々と胸を張って最後まで悪びれず、二年生の内藤、中村、大石の三選手に、「来年は必ず優勝して仇をとってくれよ」と激励していた。

本年の静岡高校選抜チームの活躍の跡をふり返ってみて言い得ることは、GK向島をはじめ、ストッパー伊藤スウィーパー西ヶ谷の縦の軸と両サイドバック岩田、内藤らとの横の守りは本大会に入って一戦一戦力をつけ、一点はPK）に押さえた。まさに本大会の最高のBK陣であったと言っても過言ではない。

一方、攻撃陣は大会前までは「点のとれないチーム」と言われていたが、休日ごとのすぐれたコーチによる練習、断えざる個人の自主トレが実を結んだのだろう。本大会に入って岡本、志田の両エースが、次々と得点し「点のとれないチーム」の汚名を返上した。

また、中盤にあって他県チームには見られない高度な組立てを行ないチャンスにはゴールに躍り込んで自ら得点した太田、滝、天野らのハーフ陣の活躍も光っていた。鈴木久が大会前の練習試合に足首に負傷し大会期間中ずっと苦しんで本来の力が出せなかったこと、中村が俊足を狙われて、ボールでなく足へ集中攻撃をうけて負傷し、やはり実力を出し切れなかったことが誤算ではあったが、チーム発足以来三ヶ月福本監督から厳しく叱咤されて努力して来た成果が花開いたという感じでまずまずオフェンス陣にも合格点があげられる成績であった。

では三連勝するために何が欠けていたのか？長池総監督は「今後の静岡高校選抜の課題は体力、パワー精神力、プレーの巾の全てに個性のある選手を作ることだ、個人個人を強くすぐれた選手に磨きあげることだ。」と言っていた。

チームとして華麗なテクニックを駆使して見た目に美しいサッカーをやること、あるいは体力とパワーと根性と闘志で猛烈サッカーをやることも必要かもしれないが、それらのチ